

令和5年度 お茶の水女子大学こども園 経営計画

I.大学の中期目標（附属学校について）2022（令和4）年度～2027（令和9）年度 を達成するための取組

(A) 【附属学校園の取組】

1. それぞれの年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行うとともに、社会貢献及び学校教育水準の高度化等に資するため、その成果を社会に発信する。 (I-4 教育研究の質の向上に関する事項【K19】)
2. 大学と附属学校園が緊密に連携する「オールお茶の水」体制のもとで、連携を推進するための体制や教育研究環境の整備を図りながら研究や取組を協働して進め、学生の実習や教員の研修を行うとともに、先導的な教育モデルや教材等の開発及びそれらの成果の発信を進める。 (I-4 教育研究の質の向上に関する事項【K19】)

(B) 【その他、大学の各機関と連携した取組】

1. 大学入学前からの総合知育成モデルの探究において大学と協働する。 ((前文) 大学の基本的な目標3)
2. コンピテンシー育成を柱とする幼児期から大学卒業までの段階的教育モデルの開発・実践・発信においてコンピテンシー育成開発研究所と協働する。 (I-2 教育研究の質の向上に関する事項【K5】)
3. 理系人材育成プログラムの開発において理系女性育成啓発研究所と連携する。 (I-2 教育研究の質の向上に関する事項【K5】)
4. 今後発生が想定される自然災害に備え、大学とともにお茶の水女子大学防災計画の適切な運用を行う。 (X-4 安全管理に関する計画)

II 教育・保育目標

発達段階や個人差に応じた援助を重ねる中で、次のような資質を育む。

- 食べる、眠る、遊ぶ生活を過ごし、心もからだも健康な子ども
- 様々な人との関わりを重ね、自分も友達も大切にしている子ども
- 「やってみよう」という気持ちを持ち、じっくり遊ぶ子ども
- 自然や文化との出会いの中で、心を動かし表現する子ども

III こども園の経営方針

1 使命 [ミッション]

- ① 生涯発達を見据えた0歳児からの教育・保育カリキュラムの開発と実践を行う。
- ② 新しい乳幼児教育の在り方について実践を通して研究し、その成果を広く発信する。
- ③ 文京区の保育・教育機関と連携し、待機児解消と質の高い乳幼児教育の普及に貢献する。
- ④ 実習やインターンシップの場や多様な研究協力の場を提供する。

2 展望 [ビジョン]

「国立大学法人お茶の水女子大学こども園運営基本方針」に基づき、就学前の教育・保育を以下のとおり実施する。

- ① 子どもの意思及び人格を尊重し常に子どもの立場に立ち、保護者の理解と協力を得ながら教育・保育を一体的に行い、心身の健やかな成長にふさわしい生活の場を提供する。
- ② 文京区の地域子ども・子育て支援事業を行う者及び教育保育医療サービスを提供する者と密接に連携し、地域、家庭及び大学との結びつきを重視した運営を行う。
- ③ 生涯にわたる人格形成の基礎を培うために、発達課題に応じた環境を用意し、遊びを通じた総合的な指導を行うことを通じて、健全な心身の発達を助長し、能動性、相互性、自発性の発揮を促す教育・保育を行う。
- ④ 幼児教育・保育に関する教育研究の場として大学、いずみナーサリー、附属幼稚園と連携し、生涯発達を見据えた0歳児からの教育カリキュラム及び乳幼児教育・保育の質の評価方法を開発し、成果を発信する。

3. 目標 [ゴール]

- ① 教育・保育課程：「つながる保育」を主軸に置いた教育・保育活動を展開し、豊かな体験を生み出す環境作りを進めるとともに保育者の援助について検討し、こども園の教育・保育課程を作成する。
- ② こども園の運営：職員、大学、他機関との連携を密にし、開かれたこども園作りを推進する。防災体制を整備し、安全で安心な園生活を保障するための環境整備に努める。
- ③ 大学との連携：附属幼稚園、いずみナーサリーとの連携研究に取り組むとともに、インターンシップの受け入れ、各プロジェクトへの協力を通して、大学との連携を図る。
- ④ 社会貢献：地域の親子を対象に多様な子育て支援事業を実施する。国内外の乳幼児保育者、教育関係者の見学や共同研究を通して、新しい乳幼児教育の在り方の検討を深め、成果を発信する。

4. 経営計画 [マネジメント・プラン]

(1) こども園経営重点課題

① 教育・保育課程

- 開園より8年目。常勤保育士2名が新しく勤務し、原点を確認しつつ新しい園運営を継続していく年である。「つながる保育」のイメージを、具体的な保育行為を題材にして語り合い、幼児の主体的な活動を支援し、豊かで確かな育ちを保障する教育・保育活動の実施を進め、環境や援助の在り方について検討する。
- ポートフォリオやドキュメンテーションを作成しその内容について語り合うことを通して、教育的なポートフォリオやドキュメンテーションへと進化させ、日々の保育の省察とそれに基づく保育の見直しや改善を進める。
- 3園合同研究会（附属幼稚園・いずみナーサリー・お茶大こども園）の共同研究をすすめ、乳幼児期の発達課題に応じた環境や援助の在り方、記録や評価の在り方について継続的に検討する。

② こども園の運営

- 感染症対策、園舎内外の安全整備、安全点検の徹底を図る。
- 新広場での活動を展開し、拠点となる場所作りを進め、豊かな体験が得られる野外環境の整備を進める。
- 本園の教育内容について保護者の理解と協働を推進するため、DVD作成や「親子活動+懇談会」実施を進める。
- 計画的な予算執行を行い、5領域の内容についてバランスのとれた豊かな経験をえられるようにしていく。
- 職員一人一人が学びの可能性をひろげられるように、zoom等を活用した園外研修の機会を計画的に設定する。

③ 大学との連携

- 大学教員の協力を得て、実践研究を進め、保育内容の充実につなげる。
- インターンシップや保育ボランティアを受け入れるとともに、授業協力をを行う。

④ 社会貢献

- 地域の子育て家庭を対象として子育て広場等を再開する。施設見学希望者についても方法を工夫して実施する。
- 実践報告書の配布やホームページでの公開等を通して、認定こども園の可能性について発信する。
- 保育実践者を対象とした園見学等については、目的等を確認しながら受け入れを図り実施していく。

(2) こども園各園務分掌の重点目標

① 総務

- 実践⇒記録⇒改善⇒実践のサイクルを稼働させ、保育の充実を支える園運営を実現させる。
- 区内の諸機関とのつながりを大切にし、関わりが広がるようにする。

② 危機管理

- 消防計画、危機管理マニュアルに基づき、訓練や点検を定期的実施し、危機管理の徹底を図る。
- 園舎内外の安全点検を定期的実施し安全の徹底を図る。
- 新省令に基づく安全計画の策定のもと、安全確保に関する取り組みを実施する。

③ 給食

- 食べる喜びや意欲を育む取り組みを重ね、郷土食の提供や子どもたちの参加の可能性をさぐる。
- アレルギー対応や衛生管理を徹底し、おいしく安全な給食の提供を支える。

④ 研究

- 日々の保育を記録し、保育者相互に学び合う研究を推進する。
- 附属幼稚園・いずみナーサリーとの3園合同研究会において、幼児の姿に基づく研究を進める。